



東地中海地域ニュース

イラン情勢(18)：ハーメネイー最高指導者の発言

研究員 山崎 和美

ラフサンジャーニー元大統領が大統領選挙の結果に疑問を投げかけて政府を批判し、その後、改革派の大規模な抗議行動が再燃した。ハータミー前大統領も政府の正当性を問う国民投票を要求するなど、改革派の動きが活発になっている。

それに対し、ハーメネイー最高指導者は、社会を不安定な状態に向かわせないよう警告した。しかし、改革派の支持者たちは抗議デモを行い、停電を引き起こすという新手法の抗議手段もあみ出している。

ハーメネイー最高指導者：社会不安招くなと改革派に警告

7月20日、ハーメネイー最高指導者は、預言者ムハンマドの召命日を記念した体制責任者および国民の様々な階層との会合に出席した。同会合には、アフマディーネジャード大統領をはじめとする三権の長が壇上に座っていたが、ラフサンジャーニー公益評議会兼専門家会議議長は、地方訪問のために欠席した。

現地報道によれば、この会合におけるハーメネイー最高指導者の発言の要点を次のように要約できる；

大統領選挙後の騒擾を「イラン国民にとって新たな経験・教訓」として「敵の策略に不注意であってはならない」と表現した。こうした騒擾が国内外の敵により意図的にもたらされたという従来のラインを踏襲した。

(英国等を意図して)「敵はイランの国内問題に干渉しないと主張しているが、干渉は明らか」と発言し、メディアを利用した西側諸国の対イラン・プロパガンダに不快感を表明した。

「如何なる肩書きや地位にある者であろうとも、社会を混乱に導こうとするのであれば、それはイラン国民の観点からは忌み嫌われた人間である」と述べ、いわゆるエリート層と呼ばれる体制関係者に対し、選挙後における国内の団結を呼びかけた。個人名などの言及はなかったものの、ラフサンジャーニー専門家会議議長の金曜礼拝発言(17日)を受けて、ムーサヴィー元首相をはじめとする改革派勢力が再び動きを見せていることから、同発言は彼らに対して釘を刺す格好となった。

改革派支持者たち：ハフテ・ティール広場で抗議デモ

21 日夕方、テヘラン市内のハフテ・ティール広場で、数百人の改革派(米 CNN は反体制派と報道)のデモ隊を治安部隊が散会させた。夕方には治安部隊とデモ参加者の一部が衝突し、数人の逮捕者が出た模様である。

治安部隊は広場を包囲し、治安当局は反体制派のデモに断固対応すると牽制した。政府系プレス TV は軍関係者の発言として、大統領選で目標を達成できなかった勢力が疑惑を持ち、暴動を起こしているとの見解を伝えた。またファールス通信によると、警察関係者は違法抗議デモの開催が治安を妨害すると警告した。

反体制派のデモ隊は、1952 年にモサッデグ首相支持派がデモを開催した日に合わせ、先月 12 日のイラン大統領選で不正があったと主張していた。民主的選挙で選出されたモサッデグ首相は 1951 年の首相就任後に石油国有化法を可決させ、英国系のアングロ・イラニアン石油会社から石油利権を取り戻したが、1953 年に米国政府・英国政府が画策した CIA 主導のクーデターにより失脚した。

改革派による新手の抗議行動：電化製品一斉使用で停電

時事通信によると、21 日夜、テヘランの一部地域で停電が発生した。選挙で敗北した改革派ムーサヴィー元首相支持派はこの日、アイロンなど消費電力の大きい電化製品を一斉に使い、停電を起こすよう呼び掛けていた。